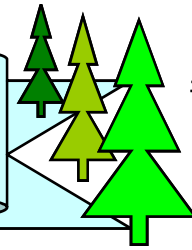


街路樹



学力向上に向けて ⑩

～ 授業改善のために、学習ルールの確立を ～

学校は子どもたちが安心して学び、力を伸ばす場所です。子どもたちが共に生活するためのルールが定着している学級では、子どもたちは、仲良く協力的関係の中で安心して学び、力を伸ばすことができます。ルールが守られず学級が荒れてくると、とたんに授業がうまく進まなくなり、子供同士の関係もギクシャクします。授業に集中できない子どもも出てきます。そうすると、教室は、安心して学ぶ場でなくなります。

学級の状態は、授業を展開する重要な条件です。授業は、学校の教育活動の大部分を占めており、授業をしながら学級づくりをしているといえます。そのためにも、授業のルールを活用し、教材の工夫、学級の実態に応じた授業の構成や展開を工夫して授業づくりを行うことが大切です。

日頃から各学校の先生方は、「わくわくするような楽しい授業をつくりたい」「指導力を高めて、子どもたちに確かな学力を付けたい」と望んでいるのではないのでしょうか。しかし、授業を行った後で「これで十分」と思えることは、なかなかないのではないかと思います。授業がうまくいかない背景として、学級での学習ルールが一人ひとりに理解されていないことが挙げられます。授業は、教材の工夫、授業の構成や展開と共に、学級の子どもの個々の特性や子供同士の関係、子どもと教師との関係によって大きく左右されます。

学習ルールは、学校全体の生徒指導とリンクして設定する必要があります。学習のきまりを学校全体として統一してつくり、徹底することが大切です。さらに、各教科ごとの必要なルールは、それぞれの教科ごとに徹底することも必要です。徹底するということは、教師自身が範を垂れることです。

『学習ルールの例』・・・学習の準備、(教師の姿勢)

- チャイムと共に着席する。(チャイムと共に授業を始める。)
- 机の上に学習材を準備する。(教材の準備をする。)
- 宿題、予習、復習をする。忘れ物をしない。(子どものがんばりを認める。)
- 先生や友達の話の間こうとして聞く。(子どもの目を見て話す。)
-

発表の仕方、ノートの取り方、活動の仕方、授業参加の態度等、学校で共通の約束のもと、学級の工夫を生かし子どもたちが楽しく安心して学習に集中できる学習ルールを、一人ひとりが理解し、定着することで学ぶ力が育ってくるものと思います。

授業改善・指導技術 ⑦

～ 補充的学習、発展的学習 ～

- **補充的学習**・・・必要に応じて繰り返し学習したり、別の場面や方法で改めて学習し直したりするもの。
 - 限られた時間で行う内容は、基礎的・基本的な内容を。
 - 理解や技能の習熟の程度に違いがある場合、一人一人の学習状況に適切に応じていくことが必要。(少人数指導、習熟度別指導など)
 - 多くの子どもにつまずきがある場合は、しっかり身につけさせるという考え方で指導の徹底を図る。
- **発展的学習**・・・身に付けている基礎・基本を基に、より広げたり深めたり進めたりする学習。
 - 子どもが自ら学び自ら考える力をより高めるために、学ぶ楽しさや充実感を味わえるように。
 - 身に付けた内容と密接に関連する教材や学習場面を。
 - 発展的課題の開発・発掘がポイントとなる。

※ 補充的学習、発展的学習を効果的に進めるためには、子ども一人一人の学習状況を適切に評価することが前提となることに留意しよう。

学級経営のヒント ⑦

～ 学年との連携・・・学級経営を充実させる学年経営 ～

- ① **学年会では共通認識・共通実践を協議しよう。**
 - 学年としての共同性・協力が教育効果を高める。
 - 学級王国的経営による閉鎖的な指導を防止する。
 - ② **学年内での相互援助の雰囲気を作ろう。**
 - 学年では、ある程度同一歩調で授業や指導が行われるように、原則を確認したり、指導方法を共有したりという配慮を。
 - ベテラン教師が若手教師に助言などの相互援助・啓発を。
 - ③ **指導のコツを交換しあおう。**
 - 最も気軽に相談できる組織。若手教員は、積極的に教えを請うことが大切。
 - ④ **学級担任の省力化を図ろう。**
 - 授業の準備や生徒指導等の他、雑務でエネルギーを費やすことも多い。学年の協力体制により労力を軽減する工夫を。
- ※ 学年は一つの組織体です。住み心地のよい学年を作るために、コミュニケーションをとりましょう。

研修の感想・講義紹介

表計算入門講座①②の感想より

- グラフ作りの操作も教わったので、通信等を作るときにぜひ使ってみたいです。授業の中でもコンピュータを使った資料が出せるようにもって覚えたいと思います。(中・F)
- 子どもにパソコンを教えることも多いが、この講座で少し自信がもてたので、子どもたちにも挑戦させたいと思いました。(小・Y)
- 関数は今まで、SUMやAVERAGE程度しか使っておらず、RANKやCOUNTIFなど便利な機能があることを知り、よかったです。(小・Y)
- 講義で情報の扱い方などを毎回聞いていますが、とても大切なことなので、今後もデータ管理には気を付けていきたいです。(中・O)

キャリア教育講座②講義より

～ キャリア教育を教育計画立案に生かす ～

早稲田大学大学院 教職研究科 三村 隆男 教授

STEP①新学習指導要領の背景を理解 STEP②キャリア教育の共通理解 STEP③**キャリア教育の視点で活動を見直す** STEP④キャリア教育と活用的学習の創出 STEP⑤キャリア教育の評価

- ※ キャリア教育は、従来の〇〇教育のように新たな内容や方法を示すのではなく、教育改革として従来の教育全体を見直す理念や方向性を示す・・・職業的(進路)発達にかかわる諸能力を育むこと
- ①人間関係形成能力 ②情報活用能力 ③将来設計能力 ④意思決定能力を育成し、発揮させることが職業観・勤労観を育む。